

新菱、素材別に資源循環

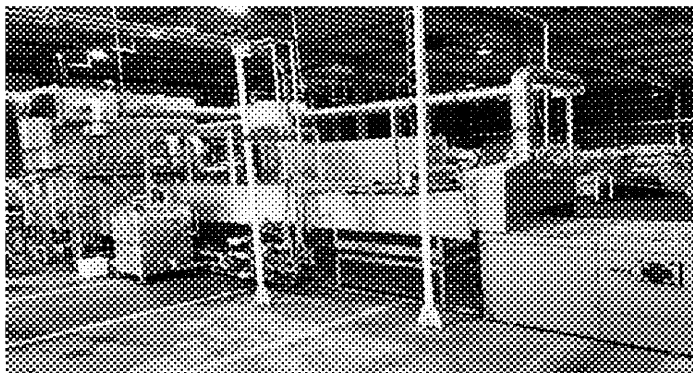
来春稼働、パネル年9万枚処理

新菱（北九州市八幡西区、土山正明社長）は、北九州市内で来春にも太陽光発電パネルの高度リサイクル工場を稼働させる。処理能力はパネル9万枚に当たる年1440ト。アルミニウムやガラス、銀・シリコン、銅に選別。熱利用も含め99%を再利用する。素材別の高度なりサイクルはこれまででない。太陽光パネルの大量廃棄時代に備え全国展開も視野に入れる。

（梶原洵子）

「廃棄物が出ない工炉に入れ、封止材の工場を目指しており、め 脂を熱分解し、ガラスどがついた」。サーキ やシリコンセル、銅線ユラーエコノミー部門に分ける。熱分解された守谷大輔企画リスク た樹脂は炉の熱源に使用管理本部長は技術開発 い、熱エネルギーとしの手心えを語る。新菱 てムダなく使う。当初は三菱ケミカルグループ 処理の難しかった割れプの子会社。化学の技 たパネルも、樹脂の分術を用いて、多様な資 解後に振動ふるいや風源の再利用に取り組ん 力選別を使って選別すでいる。る技術を早稲田大学と共同開発した。太陽光パネルの高度 リサイクルの方法は、 取り出した金属類はアルミ枠を外して高温 製錬会社に、ガラスは

太陽光パネル高度リサイクル工場



カレット（ガラス屑）（守谷本部長）とすメーカーに有価物とする。て販売できる水準まで 太陽光パネル100技術開発が進んだ。同 0キロ分をリサイクルガラスでグラスウール することで、約200を製造できることを確 定の二酸化炭素（CO2）の排出を削減するスにも展開したい」 効果があるという。アルミは約10ト、銀・銅は約1ト回収される。

現在グル ープ会社で 太陽光パネ ルのアルミ 枠を取り外 し、残りを 破碎して路 盤材に使う 簡易なりサ イクルを行 います。▲リサイクルの中核となる熱分解炉のイメージ

大量廃棄時代に備え全国展開も

っており、2021年度の回収実績は1万3700枚。「廃パネルは30年頃から増える」（同）といい、新工場では当面、九州地域での実績を着実に積み重ねることが重要となる。

守谷本部長は「25年度以降に関西・関東にも同様の技術を展開したい」と語る。具体的な進出計画は決まっていないが、廃パネルの輸送コストを抑えるため地域内で循環させる必要があるとみる。三菱ケミカルグループの拠点活用のほか、技術ライセンス提供の可能性もある。新技術の普及を目指す。

